

錫はISM指数を受け値を上げる

LME錫相場は125ドル高の2万1,240ドルと反発。米ISM指数を受け値を上げて引けた。

鉛は米雇用統計控え調整売り

LME鉛相場は18ドル安の2,147ドルと反落。米雇用統計を控え調整売りから下落した。

亜鉛は米ISM指数で小幅高

LME亜鉛相場は1ドル高の1,871ドルと続伸。米ISM指数で小幅高となった。

アルミはISM指数を好感し上昇

LMEアルミ相場は9ドル高の1,779ドルと続伸。米ISM指数を好感し上昇して引けた。LMEアルミ合金は1ドル高の1,750ドル、北米特殊アルミ合金は1ドル高の1,790ドル。

ニッケルは米雇用統計を控え軟調

LMEニッケル相場は75ドル安の1万3,635ドルと続落。米雇用統計を控え軟調地合いに。

KLTM錫は195.2セント反発

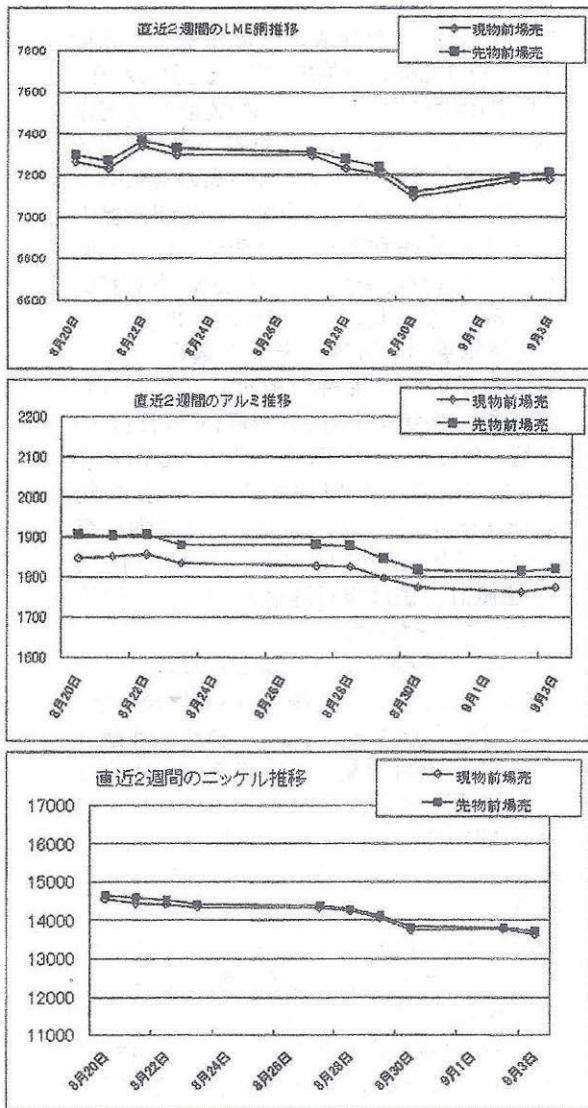
採算値は3万4,000円高

KLTM錫は195.2セント高の71.280Mドルと反発。USDドルは350ドル高の2万1,600ドル、出来高は37トン。Mドル/USDドルレート=3.3000とTTSレート100.61円で換算した採算値は3万4,000円高の217万8,000円、諸掛け込みの採算値は3万4,000円高の233万8,000円。

橋本健一郎氏の銅スクラップ8月レポート及び9月見通し

■概況：前半は米FRBの要人が次々と金融緩和縮小の開始時期が近いとのコメントをするなどのマイナス材料はあったが7月のユーロ圏のPMI（製造業景況感指数）が50.5と18カ月ぶりに50を上回ったことや中国税関総署発表の貿易統計で銅輸入が+8.1%と予測を大幅に上回ったことを好感し7273ドル（セツル）と前月最終価格より521ドル上げての前半締めとなった。

後半は8月の中国HSBCのPMI指数が50.1と4カ月ぶりに50を上回ったこと、ユーロ圏消費者信頼感指数が約2年ぶりの高水準だったことなどプラス材料があったが、アメリカの長期金利上昇に伴う金融緩和縮小観測の再燃や米国主導のシリアへの軍事介入など地政学的リスクが台頭し一時7100ドル割れまで下落。ただ9月3日現在、8月の中国国家統計局PMIが51.0と予測の50.6を



上回ったことや8月の英国製造業PMIが57.2と2年6カ月ぶりの高水準だった事を好感。前半締めから97ドル下落の7175ドルと下げ幅を圧縮、建値74万円のスタートとなった。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-1.5%の91万114台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数（軽除く）は前年比-6.4%の21万7411台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+1.2%の8万4459戸であった。

貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は、前年比で電気銅が-0.7% 3万9694t、スクラップが-17%の2万2602t。輸入は電気銅が前年比+151%の5287t、スクラップ-1.4%の5765t。

また前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発

表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比+1.6%の6万9670t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によれば銅電線出荷は前年比+3.8%の6万1800tであった。

■見通し:8月はFOMC議事録公開に伴う米国金融緩和縮小懸念と米国主導のシリアへの軍事介入に一喜一憂した月となった。FRBの要人が縮小時期の必要性についてコメントする中での21日のFOMC議事録発表への警戒感や米国のシリアへの軍事介入が始まった際の地政学リスクへの警戒感から。

自動車生産は前年比-1.5%の11カ月連続マイナス。国内向け-8%、輸出向け生産-1%と共にマイナスだが減少幅は縮小。販売の方は3カ月ぶりに1桁悪化に留まり前年比-6.4%となり、乗用車は-7.9%、貨物は+4.1%、バスは+12.2%となった。新設住宅着工戸数は先月に続き11カ月連続増加し前年比+12%(前月比(季節調整済み)+0.1%)の8万4459戸。今月も堅調な住宅関連。持家+11%、貸家+19%と大幅増。ここ最近の消費マインドの改善から。消費税・住宅減税その他の政策の動向に注目。

伸銅品生産量は前年比+1.6%の6万9670tと9カ月ぶり前年を上回る。輸出は円安を追い風に4カ月連続前年プラスの+17%。黄銅棒が7カ月ぶりのプラス1万6千t超え。銅電線出荷量は、前年比+3.8%の6万1800tと1カ月ぶりプラス。うち、国内が+2.8%、輸出が+67.4%と大幅増加。建設・電販が+11.3%、電気機械が+3.2%、通信が-9%、電力が-12.8%。輸出に関しては、電気銅輸出が前年比-0.7%の3万9694tと微減。銅スクラップは-17%の2万2602t。円安で輸出環境ではあるが住宅に続き自動車も回復基調になってきた事からの原料需要の改善から減少。輸入は電気銅が+151%の5287t。スクラップは-1.4%の5765t。ようやく待望の自動車生産が

回復基調になってきた事から電気銅需要は大幅増加。スクラップは円安による割高感から微減。

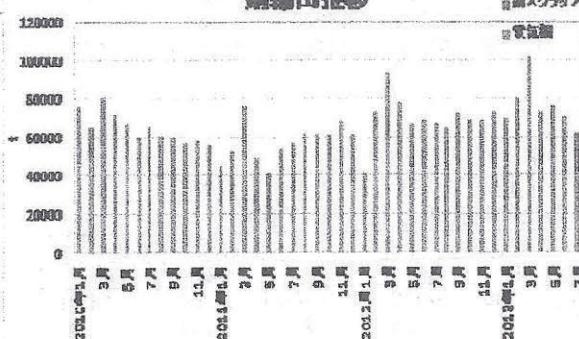
銅需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+12%11カ月連続増加、持家+11%貸家+19%と好調。待望の自動車は生産が11カ月連続前年割れが続いたが-1.5%と二桁減少から大幅縮小。8月の国内販売台数も-6.4%と先月の半分まで縮小幅が減少。また中国景気後退懸念もここ最近の経済指標をみれば収まっており、9月も好調が続ければ今後ますます供給不足が拡大するの可能性が高い。

銅価格に関しては、今月は米国のシリアへの軍事介入と金融緩和の縮小時期に左右される。全体としては米国、中国、欧州、日本の経済指標が比較的安定したことから、以前から噂されていた9月開始が行われる可能性が高いのではないか?シリアへの軍事介入は予測することは不可能だがいずれにせよその問題が台頭している限り産業用金属である銅に関しては軍事介入は明らかにマイナス材料。それらを踏まえた銅価格、上値は上記がどちらも行われなかった場合、8月後半高値付近の7350ドルを予測。下値は米国の金融緩和縮小開始とシリアへの軍事介入が共に行われれば大幅下落する可能性が高く8月最安値のもう一段安の6700ドルを予測。為替はシリア軍事介入からのドル売り円高からAve97円との予測。銅建値に関しては680-750円程度と予測している。

	5月	6月	7月
生産台数	73万2714台	89万3145台	91万114台
前年比	-6.2%	-9.5%	-1.5%
6月	7月	8月	
輸出合計	26万6912台	28万4514台	21万7411台
前年比	-15.8%	-13.5%	-6.4%
5月	6月	7月	
新設住宅着工数	1万9751戸	8万3704戸	8万4459戸
前年比	+9.4%	+15.3%	+12%
輸入	5月	6月	7月
電気銅	1270t	5415t	5287t
前年比	-53.8%	+66.2%	+151%
スクラップ	4851t	3961t	5765t
前年比	-38.3%	-28.7%	-1.4%

	5月	6月	7月
電気銅	4万8878t	4万774t	3万9694t
前年比	+10.7%	-7.1%	-0.7%
スクラップ	2万7933t	3万127t	2万2602t
前年比	+21.4%	+31%	-17%

銅輸出推移



銅輸入推移

